

保健管理センター発

せき 長引く咳に注意!

保健管理センターの利用状況を見ますと、例年、来室理由で最も多いのは、学生・教職員ともに「呼吸器系」の不調です。その主な症状の一つが咳です。今回は、「咳が長引く」ときに考えられる病気について、いくつかお話しします。

百日咳かも

毎年、冬ではなく春から夏にかけて、「咳が長引いている」ために多くの方が保健管理センターに来ます。

成人の慢性咳嗽(しつこい咳)のおよそ4分の1は、百日咳の可能性があると言われています。以前は主に乳幼児の病気でしたが、**ここ数年、成人の百日咳患者が急増し**、北海道教育大学でも平成20(2008)年に流行しました。百日咳は、言うまでもなく感染症(伝染病)の一つです。

大学生の年代では、重症の百日咳は稀で、ただ咳が長く続いているくらいにしか思わないため、自分が病気であることを自覚せず、周りの人たちにうつしてしまうことがあります。もしも**乳幼児や高齢者にうつしてしまうと、呼吸困難で死亡させてしまうことさえある**のです。

微熱や鼻水などの風邪のような症状で始まり、その後、咳だけがいつまでも続くときは、内科(呼吸器内科)で百日咳の検査を受け、きちんと診断、治療をしてもらって下さい。

花粉症かも

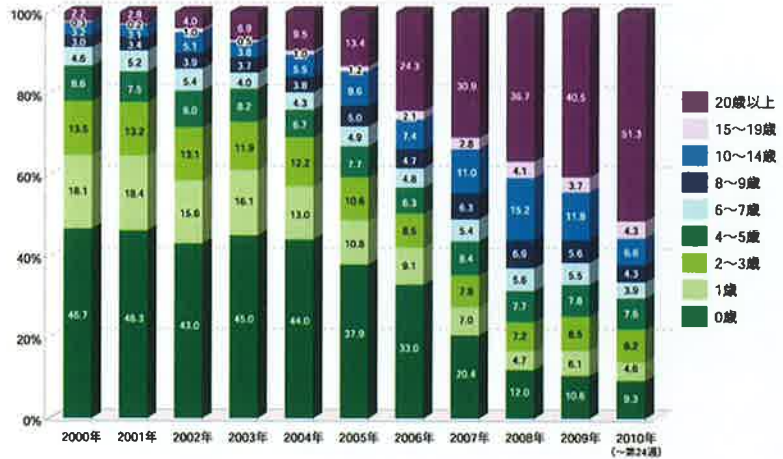
花粉症の症状としては、くしゃみ、鼻水、目の痒みが代表的ですが、実は、咳が続くことも少なくありません。

ある決まった季節に、発熱はないけれども咳が長く続くという人は、花粉症の疑いがありますので、耳鼻科やアレルギー科などで相談してみてください。

マイコプラズマ肺炎かも

マイコプラズマ肺炎は、別名「歩く肺炎」と呼ばれています。それは、胸部レントゲン写真で明らかに肺炎があっても、全身状態はそれほど悪くないことがよくあるため、ひどく咳が出ている状態で登校して、流行を拡大させることがあるからです。

インフルエンザであれば、通常、1週間ほどで発熱・咳ともにおさまりますが、マイコプラズマ肺炎では、発熱や咳は2週目ころ



百日咳の報告症例の年次・年齢別割合(2000年~2010年第24週)
(国立感染症研究所 感染症情報センター「感染症発生動向調査 週報」より)

が最もひどくて、咳はなかなかおさまらず、3~4週間ほど続くこともあります。

発熱と咳があつて、咳が長引く場合は、マイコプラズマ肺炎の可能性も考えて、内科(呼吸器内科)での診察を受けて下さい。

結核かも

結核については、「かつては不治の病と呼ばれていたが、もはや過去の病気」という印象があるかもしれませんが、決して過去のものではないのです。

結核は、昭和25(1950)年ころまでは、日本人の死亡原因の第1位でした。治療の進歩により、死亡者数は大幅に減少しましたが、新規患者数(新たに結核にかかった人)は平成9(1997)年に再び増加しました。その後は、新規患者数・死亡者数ともに年々減少傾向にあります。それでも平成20年の新規患者数は24,760人、死亡者数は2,220人のほり、**結核が日本において依然として重大な病気であることに変わりはありません。**

テレビドラマに出てくる結核患者は、たいてい激しい咳をしていて、血を吐くこともあります。これは病状がかなり進行した場合です。**結核に感染しても初期の段階では無症状で、多くは健康診断などの胸部レントゲン写真で発見されます。**早期に発見し、治療を開始すること

が重要です。

毎年の健康診断を受けることはもちろん、微熱を伴って咳が長く続く場合は、早めに内科(呼吸器内科)を受診して下さい。

診察や治療などのためにどこに行けばよいかわからないという人は、まずはホケカンで相談して下さい。

どんな病気であっても、自分の治療とともに重要なことは、他人に病気をうつさないようにすることです。咳が出ている時は、イラストのような「咳エチケット」をしっかりと守りましょう。

(保健管理センター・所長・羽賀 将衛)

Stop the spread of germs that make you and others sick!

Cover your Cough



Clean your Hands

